

顕現するうどん

text by Shinji Ishii
文いししんじ

香川県、高松という土地は、うどんできて、と誤解しているひとが多いのではないか。

いってみると実際、うどん、うどん、うどんばかりで、そして高松で生まれ育った地元のもの、いやあ、うどんしかのうて、勘弁してつか、と笑うのだが、高松には、うどんしかないわけでない。うどんとは、高松のはらんでいるポテンシャルが、目にみえる、白く細長いつるつるとしたかたちをとってあらわれた、いち顕現にすぎない。

僕の母は幼いころ、香川県三豊郡、仁尾町で育った。江戸時代から塩田を統べていた家で、町のそこいらじゅうにおじいさん、ひいじいさんの石碑が建っていた。

四月八日の花祭りの日、町内を巨大な動物が練り歩いた。背中につけてよかったのは、母たち四姉妹だけだった。巨大な動物は、からだだけやない、松山から徳島まで、瀬戸内のそこいらじゅうに、いたずら好きのためきがおると。

たとえば、「帳たぬき」。夕暮れ時、ひとりで家に帰ると、農道のまんなかに、なんやしらが、真つ白い帳がおりとる。おやまあ、いうて、くぐりぬけると、そこにももう一枚、帳がおりよる。またくぐると、もう一枚、またくぐると、もう一枚。えんえん、えんえん、帳がおりよるん。うしろにもどつても、えんえん、えんえん。疲れ切つて寝てしまふじやろ。目えさめたら、お社の泥の上で、大の字になって寝よるん。

「徳利たぬき」は、道のまんなかに、徳利が立つとるん。なんや、一杯もらおか、おもて取ろうとしたら、ころころ、ころころ、転がって、いくら追いかけても追いつかんの。疲れ切つて、寝てしまつたら、やっぱり、お社の泥の上で、大の字になつとるん。

思いかえせば、どちらのためきも、たぐつてもたぐつてもおわりに届かない、無限のうどんのようなものである。そしてそれは、えんえんと四国をめぐる、お遍路の道に通じているかもしれない。

仏生山温泉、ときいて僕ははじめ、ゴザにすわつて大衆演劇みながお団子をかじる、そんな風情を思い描いていた。大間違いだった。つ

上に巨大な、長く伸びる鼻で、姉妹を抱え、持ち上げたりした。

そのことを先週、高松で生まれ育つたとあるひとにいうと、

「ああ、おつたねえ。ゾウが」

とこともなげにいった。そのひとのいた町内でも花祭りにはゾウが出たらしい。ひよつとして同じゾウが香川県内を巡回していたのかもしれない。いうまでもなく花祭りはお釈迦様の誕生日で、お釈迦様のお母さんは、懐妊の前に、右脇腹に白いゾウがはいりこむ夢をみるのだ。くねくね動く白いゾウの鼻は、どこか遠くで、井のなかの、つるつるのうどんとつながっているはずだ。

母はその後、オレンジ色の空をゆく巨大な編隊と、燃え上がる高松の町を郊外の高台から見いてみたそこは、現代美術のギャラリーのような空間で、そこに、たつたいまうどんをすすつてきましたよ、といった風なおじいさんとおばさんがごろごろしている。

建築家の岡昇平さんのおとうさんが、ある日突然、もともと温泉街でもなんでもないこの土地を掘り始め、そして、掘り当てた。東京で建築を学んだ岡さん設計のもと、二〇〇五年、仏生山温泉はオープンした。

そのお湯にはいつてみる。初夏の陽ざしに火照つたからだを、やんわりと落ちつかせてくれる、ぬるいぬるい炭酸泉。頭上で葉もみじが揺れている。木漏れ日の下、湯のなかで淡い気泡がつつまれたからだだが、少しずつ、少しずつ、

た。十年と少し後、焼け跡の中心に丹下健三が建てた県庁に、はじめての女性職員として勤めることになる。六十年経つたいまも県庁は「つるつる」びかびかだ。毎日ふき掃除をつづけてきた、有名な、お掃除部隊のおかげで。

その数年後、兄が、二年後に、僕がうまれる。中学にあがるくらいまでの間、僕にとつて「よいこと」「おもしろいこと」は、ほぼすべて、仁尾の「おばあちゃんち」から発し、この土地で熟成した。夏の果物も、海水浴も、肝試しも、長い長い本も、太平洋戦争の話も、夏目漱石も。

狸のことがある。おばあちゃんがよく話してくれた。仁尾だ輪郭を失い、高松のこの土地に溶けていく。目をとじていると、自分が、透明な一本の紐になっていく感じがする。この温泉を訪れたひとは皆、裸んぼのまま体感するだろう。高松という土地自体、目にみえない世界からこの世に噴きだしてきた、温泉のような町だと。ひとはみな、そのなかに浮かび、気持ちよく、ゆるやかにたゆたつていっている。うどんを愛する高松のひとたちは皆、高松に住み、高松を訪れるひとびとを愛しているのだと。



香川県高松市

面積: 375.44km²
人口: 420,261人
人口密度: 1119.4人/km²
世帯数: 184,740世帯
市の木: 黒松
市の花: ツツジ

※H29.5.1現在

Profile

1966年大阪生まれ。京都在住。著書に小説『ぶらんこ乗り』『麦ふみクーツェ』『ポーの話』『みずうみ』『四とそれ以上の国』など、エッセイ『人生を救え!』(町田康共著)『熊にみえて熊じゃない』『遠い足の話』、絵本に『赤ずきん』(ほしよりこ絵)など多数。

